

21. 隠元橋周辺の発見 その1

フェイスブック掲載日 2021/10/10

先日、隠元橋を車で渡っていると、かみさんがカーナビを見て、「向島渡シ場町」というところがあるよと指差した。ちょうど「隠元の渡し」のうんちくを垂れていたところだったので、びっくりして見やり、そういう地名があることも知らずに偉そうなことを言っている自分に少々あきれながらも、その住所に向かうことになりました。

隠元橋の東詰あたりから、斜めに渡った付近に「渡し場」にちなんだものがあるだろう、との狙いです。

実は以前、宮内庁書陵部画像公開システムで明治初期の宇治木幡村の地図をみつけ、「隠元の渡し」が図示されているのに関心を持ちました。宇治川右岸から左岸に渡るのに、川の流に逆らわず、斜めに渡るように絵が描かれていたのです。

しかも、この地図はもっとすごいことを伝えています。左岸寄りに中州が描かれており、これによって細い分流がつくられています。左岸から右岸に渡る場合、川を遡らなければなりませんが、この分流を使えば比較的簡単に上流に向かうことができ、地図に書き込んだ赤線のようにたやすく右岸に渡っていたと推測できます。この地図を見てはじめて分かったことです。

さて、狙いを付けていた所には「隠元の渡し」の目印の一つとして御神木が立っており、そのそばに「隠元の渡し址」の立て札がありました。「向島渡シ場町」には船頭さんが暮らしておられ、右岸から左岸に渡る人は大声で船頭さんと呼んだと言われている。

なお、「ひろば京都の教育」160号(2009.11)に元教員で郷土史研究をされておられる早川幸生さんが「渡し舟(渡し場)」のタイトルで「隠元の渡し」など「ワタシ」を書いておられ大変参考になりました。



